

令和3年度第1回射水市地域公共交通活性化協議会 会議録

- 1 開催日時 令和3年8月6日（金）午前10時15分～午前11時30分
- 2 開催場所 射水市役所3階会議室302・303
- 3 出席者 岩田会長、川腰副会長、大野木委員、金田委員、釣谷委員（代理栗原氏）、宮腰委員、原田委員、上野委員、白川委員、水上委員、福田委員、高嶋委員、長谷部委員（代理石黒氏）、中村（弘）委員、中村（隼）委員、石黒委員、中崎委員、町野委員、伊藤委員、有田委員（代理岩井氏）、石橋委員、片岡委員（代理砂原氏）、武部委員、津田委員、桜川委員
- 事務局 塩谷市民生活部次長、星野生活安全課長、保田課長補佐、北川主査、土橋主任

4 会議概要

(1) 開会

岩田会長挨拶

(2) 議事「射水市地域公共交通網形成計画の進捗状況について」

資料1、参考資料

（事務局説明概要）

主な取り組み状況について

- ・令和3年度コミュニティバス等再編プランの実施として、令和3年8月1日に路線再編を行った。
- ・乗継拠点について、「新湊地区センター前」であったものが、クロスベイ新湊の整備に伴い、「クロスベイ新湊」に変更した。また、太閤山とは、「パスコ前」を指す。
- ・令和2年度の拠点での乗降者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度から全体的に減少の傾向にある。ただし、クロスベイ新湊については、開業の効果により、増加している。
- ・令和2年度の1人当たりの運行負担金は、令和元年度から上昇している。新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少したことや、感染症対策費用の増加が影響した。
- ・令和2年度の高齢者運転免許証自主返納支援事業の利用件数は、令

和元年度から減少した。新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者の出控えも影響したと考えている。

(委員)

「べいぐるん」との連携について、「1まちづくりと連携した公共交通網の整備」の「(2)利便性の高い交通結節点づくり」の中の主な取組状況に記載してほしい。

(事務局)

「べいぐるん」との連携については、検討していきたい。また、「べいぐるん」については、「3暮らしを支え、交流を促す交通機能の充実」の「(2)地域内外の交流を促す公共交通の充実」の中の主な取り組み状況で記載している。他の項目への記載についても、検討する。

(委員)

配布資料1には、進捗の結果のみが記載されている。ペーパーレス等の理由があるのかもしれないが、新しい委員の方もおられるので計画の概要版も添付した方が分かり易いのではないかな。

また、市民満足度のアンケート調査が最終年のみとなっている。経費などの課題もあるかと思うが、中間でのアンケート調査を実施し、途中経過を把握した方がよいのではないかな。

(事務局)

配布資料については、工夫して対応したい。中間時期でのアンケート調査については、検討する。

(委員)

乗車人数の年代別のデータはあるか。

(事務局)

学生定期の購入者数などのデータはあるが、総乗車人数の年代別の集計は行っていない。

(委員)

学生の利用者数は減っているのか。

(事務局)

学校休業期間は減少したが、それ以外の期間については特段減ってはいない。令和2年度の合計としては、減となっている。

令和3年とコロナ禍前である令和元年の4月から6月までの乗降実績を比較すると、現在約9割の利用者数が戻ってきている。

(委員)

地域あいのり移動支援実証事業について、具体的な対象地域や利用料金など詳細について教えてほしい。また、地域振興会連合会への案内はいつ頃になるのか。

(事務局)

今年度1地区を選定して、実証実験を予定している。今年度は制度設計の段階であり、地域振興会連合会への案内は、来年度になる見込みである。

(委員)

配布資料には記載されていないものの、先程事務局から口頭で説明のあった各種分析等については、今回の協議会のHPへの掲載時にはいっしょに掲載していただきたい。その方が、この協議会に注目しHPも閲覧されている住民の方々にも分かり易く、内容も伝わるのではないか。

(事務局)

HPへの掲載については、対応する。また、次回以降の資料には、数値だけでなく、分析等についても可能な範囲で記載する。

(3) 議事「コミュニティバス・デマンドタクシーの収支状況について」

資料2

(事務局説明概要)

計画における目標値と現状について

- ・令和2年度のいずれの指標の実績についても、新型コロナウイルス感染症等の影響により令和6年度の目標値から乖離している。

今後の取組について

- ・コミュニティバス・デマンドタクシーの最適化として、今年度路線の再編を行った。今後、運賃の見直し等を検討する。
- ・運行財源の確保として、広告収入等を検討する。
- ・モビリティマネジメントとして、公共交通の乗り方教室や、買い物ツアー等を計画・促進する。
- ・交通サービスのキャッシュレス化として、昨年度から継続してスマホ定期券の推進を図るとともに、QRコード決済の導入検討を進める。
- ・公共交通の持続性を確保するためには、収支改善は不可欠である。新型コロナウイルス感染症の影響からも回復も含め、利用状況の推移などを見定めていく必要がある。収支改善に向けた取り組み

について、意見をいただきたい。

(委員)

今後の取組の中に、「べいぐるん」や射水市周遊バス「いみずかーにばす」との連携・利用促進についても加えるよう、お願いします。

(事務局)

今回、地域公共交通網形成計画内で策定されている施策について、取組を説明したものである。

「べいぐるん」や「いみずかーにばす」との連携・利用促進については進めていきたい。

また、「ぶりにかにバス」については、今回の路線再編で⑰番線海王丸パーク・ライトレール接続線を9月末で廃止し、ぶりにかにバスへの一元化、強化につなげる様、観光部局とも連携して進めている。

(委員)

以前より、学校の保護者から土日の模擬試験や部活動に対応した運行を希望する声がある。別の学校では、JRと年間の行事予定に併せて運行を調整しているところもある。

ただし、模擬試験や部活動は、全校生徒が対象ではなく、不定期等、対応が難しいことも理解している。引き続き、年間の行事予定を連絡する等、やりとりしていきたい。

(事務局)

これまでも、学校や利用者の方からの要望について、可能な限り対応している。今回の路線再編を受けて、微調整が必要になることも認識している。今後も、行事予定等を教えていただきながら、見直しや対応を相談していきたい。

(会長)

現役世代がマイカーを利用しているため、公共交通を利用しない。公共交通の魅力を高める方向で、マイカーから利用の転換を図るアイデアがないか。

(事務局)

まず、コミュニティバスを知ってもらうことが課題であると認識している。You Tubeで生活安全課所属の地域おこし協力隊が「ちゃんさんぽ」という番組を始めて、乗り方やバス停周辺の紹介している。その中で、魅力も高めるようしていきたい。You Tube番組は、若い方向けであるため、高齢者に向けても乗り方教室等検討していく。

(委員)

市職員が車を使用しない日を設定し、公共交通を利用して、それをメディアに取り上げてもらうのはどうか。

(事務局)

富山県でノーマイカーデーという取組を数年前から実施している。今回の路線再編によって、市役所への便数が増加しており、PRできればよい。

(委員)

県と別の日にも実施することで、PRになるのではないか。

(事務局)

県のノーマイカーデーは一例であり、いろいろな対応を検討したい。

(委員)

再編後のバス停は、グーグルマップで確認できるのか。

(事務局)

現在最終調整中であるが、再編前と同様に確認できるようになる。

(3) 閉会